

週日の説教

金 大烈 神父 2009年3月28日(土)

《秘跡の恵みを信じましょう》

今日は二つのことについて、皆様にお話ししたいと思います。

一つは、今日このミサですでに読まれた祈願とこれから読まれる祈願についてです。

まず、集会祈願の中にこのような言葉が書かれていました。「あなたの恵みがなければ、だれもみ心にかなうことができません。」次に奉納祈願に「み旨に逆らうわたしたちの心を、力強くあなたのもとに引き寄せてください。」と書いてあります。そして、拝領祈願には「秘跡の働きによってわたしたちを清め、み心にかなうものとしてください。」と書いてあります。

この三つの祈願を読んでみますと、私たちが今、どのような信仰の生活をしているかを量ってみる基準になるのではないかと思います。

集会祈願の「あなたの恵みがなければ、だれもみ心にかなうことができません。」とは、どういう意味でしょうか。私たちは、神様からの恵みを求めなければ神様のみ心にかなう心が生じない、ということ。求める、ということは易しく言いますと、祈ることです。祈らずには絶対、神様のみ心にかなうことはできないのです。

たくさんの人々が自分の頭で信仰を解釈して、信仰の道を歩もうとしています。しかし、信仰というものは頭でできるものではありません。それは胸です。胸で感じられる何かなのです。そしてそれは、神様が許してくださらなければ絶対悟れないものなのです。その悟りを求める私たちに何よりも必要なことは祈りです。祈りがなければ、反省も勇気も希望も自分のものにすることができないことを、このミサをとおしてもう一回考えてみましょう。

そして2番目の祈り、「み旨に逆らうわたしたちの心を、力強くあなたのもとに引き寄せてください。」"み旨に逆らったことはありません"とおっしゃる方がいるかもしれません。しかし、私もそして他の方も同じだと思いますが、いくら頑張ってもいつも逆らうことばかりです。正しい生き方をしようとしても、うまくいくのは本当に難しいです。ですから、これも、神様に恵みを求めなければならぬと思います。"私が逆らうことなく、み旨にかなうものになるように導いてください。そのように力強く私を抱きしめてください。"という祈りが必要であると奉納祈願をとおして話されているのではないかと思います。

最後に、「秘跡の働きによってわたしたちを清め、み心にかなうものとしてください。」私たちは、2000年間続いてきたこのカトリック教会の秘跡についてどのくらい信頼感を持っているのでしょうか。赦しの秘跡、何よりも私たちが一番大きい恵みとしていただいた洗礼の秘跡、そして洗礼の秘跡によってできるいろいろな秘跡、特にご聖体をいただくこと、について、私たちはどのくらい実感しながら、生活をしているのか、考えてみましょう。

私は、「四旬節や待降節だけ、まとめて赦しの部屋に入ることはあまり望ましいことではない」と申しあげましたが、皆様覚えていらっしゃるでしょうか。「気にかかることがあれば、一年中いつでも、赦しの部屋を求めてください」と私が話したことをよくご存知だと思います。もし私たちの心の奥に赦しの秘跡の大事さやその恵みについての体験ができたならば、赦しの秘跡を軽くしてしまうことはないと思います。

皆様、秘跡の恵みを信じてください。信頼してください。人間には考えられない不思議なことがよく行われているのです。赦しの秘跡によって、皆様各自が清められるように毎日努力しなければならぬことを今日の説教を借りて皆様に言いたいと思います。

次に福音(ヨハネ7:40-53)に入ります。今日の福音では、ニコデモの話しや、不信感を持っているファリサイ派の人々や律法学者達の話しが出ています。その人々の話を聞いたら、なぜこんなにも心が固いのか、という気持ちになります。

親が子ども達にあげられる一番大きいプレゼントとは何でしょうか。お金を儲ける方法でしょうか。この世の中で成功する方法でしょうか。生まれつきの知能でしょうか。立派で丈夫な体でしょうか。格好よい顔でしょうか。

私が親ならば、必ず子どもにあげたいものがあります。それは、貧しいか、お金があるかには全然関係のないものです。それは、自分が悟った一番素晴らしいと思っている道、『信仰の道』を教えることです。親として子ども達に一番あげなければならないプレゼントは、子ども達がどんな難しさに巻き込まれても何とか乗り越えられる力をいただく、その信仰の光を教えてあげることだと思います。それをしなければ、私たちは一番大きい責任を果たさなかったことになります。

このミサを通してもう一回考えてみましょう。口では、"愛している家族" と言いながら、その家族のために自分が一番良いものだと思っているものを伝えているのでしょうか。案内しているのでしょうか。それをしていなければ、反省すべきことだと思います。

信仰を伝えるためには、何よりも私たちが確信を持たなければならないと思います。自分に確信がないから、他の人に、関わりのある人々に、手を伸ばすことができないのではないのでしょうか。もし、皆様がこの信仰について、一番大事な道、重要なものであることをはっきり悟れたならば、確信したならば、どんな犠牲を払ってでも自分の愛しているいろいろな人々にこの道を紹介するはずだと思います。

皆様、いろいろな問題はあると思います。しかし、祈りから始めてください。毎日意向を持って、家族のため、たとえばお父さん、娘、孫、兄弟、その名前を具体的に出しながら祈ってください。絶対神様は拒みません。

ありがとうございました。